

# 教科と総合的な学習の時間をつなぐ単元計画の検討

## — 第3学年の課題設定段階の事例 —

鈴木良和（大阪市立鷺洲小学校）・松井奈津子（大阪市立鷺洲小学校）  
三宅貴久子（東京学芸大学）・黒上晴夫（関西大学）・泰山裕（鳴門教育大学）

概要：本研究の目的は、総合的な学習の時間（以下、総合的な学習）において教科と総合的な学習を資質・能力でつなぎ構想した単元計画とその成果を検討することである。総合的な学習では、各教科で習得した知識や技能を活用して探究活動を進めることが重要であるため、総合的な学習を軸としたカリキュラム・マネジメントの検討が必要であると考えられる。教科と総合的な学習を資質・能力でつないだ単元計画を構想し、実践することで、児童は、総合的な学習に対して、自分たちの思いを実現する場、探究的・協働的な学びの場、教科で学んだことを発揮する場と認識していることが明らかになった。

キーワード：総合的な学習の時間、カリキュラム・マネジメント、課題設定段階、単元計画

### 1 はじめに

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、カリキュラム・マネジメントが、学校全体で教育活動の改善を進めるための重要な役割を果たすとされている。（文部科学省 2017）

カリキュラム・マネジメントは、「子どもや学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各校の教育活動の質の向上を図っていくこと」とされている（文部科学省 2017）。しかし、具体的にどのような視点で教科等の目標をつないでいくのかは、各学校現場において試行錯誤を重ねている状況である。

そこで、本研究は、総合的な学習を軸として各教科を資質・能力でつないで構想した単元計画を作成し、実践し、その効果を検討する。

### 2 実践の概要

#### （1）対象とする単元

対象児童は、大阪市立鷺洲小学校第3学年1組（33名）である。総合的な学習「人とつながり大発見！鷺洲100選！」を軸として、生活科「もっとなかよしまちたんけん」や社会科「わたしたちの町のようす」と資質・能力でつないだ実践を行った。単元目標は、「鷺洲の町に関する『ひと・もの・こと』を調べて、町で生活をしたり、働いたりしている人々の様子や思いを知ること、地域の特色に気付き愛着をもって生活することができる。」である。総合的な学習の単元計画は表1の通りである。本研究では、総合的な学習の課題設定段階（第1次）と生活科及び社会科の学習を資質・能力でつないだ学習効果に重点を置き検討する。

#### （2）資質・能力でつないだ単元プラン

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と3つの柱で整理している。本研究でも、この3つの柱を中心として総合的な学習と生活科及び社会科を資

質・能力でつないだ単元プランを構想した。単元プランは、表 2, 3, 4, 5 の通りである。

表 1 総合的な学習の単元計画

第 1 次「鷺洲のこと もっと知り隊！」(26 時間)
・探検活動を通して、鷺洲の町の様子について詳しく調べたいという意欲をもつことができる。
第 2 次「鷺洲の人と つながり隊！」(28 時間)
・インタビュー活動や調査活動を通して、鷺洲の町の様子を調べることができる。
第 3 次「鷺洲のこと 伝え隊！」(16 時間)
・鷺洲の町で生活をしたり、働いたりしている人々の「思いや願い」を整理・分析し、自分なりの鷺洲の町の様子を表現することができる。

表 2 「知識・技能」でつなぐ

「知識・技能」	
生活科	社会科
・身近な地域の人々やさまざまな場所について理解する。	・身近な地域の様子は、場所によって違いがあることを理解する。

総合的な学習 第 1 次「鷺洲のこと もっと知り隊！」
・町を位置や空間的な広がりという視点から、住宅、さまざまな種類の店、小規模の工場などが混在している特徴に気付く。

表 3 「思考力・判断力・表現力等」でつなぐ

「思考力・判断力・表現力等」	
生活科	社会科
・これまでに関わった人々の中から、会いたい人を決め、探検の計画を立てたり準備をしたりする。	・身近な地域について、学習問題や予想、学習計画を考え、適切に表現する。

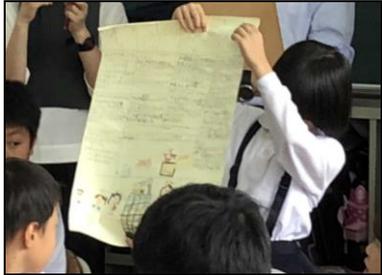
総合的な学習 第 1 次「鷺洲のこと もっと知り隊！」
・生活科や社会科で実施した調査活動と関連づけて、自分なりの調査活動の見通しをもつ。

表 4 「学びに向かう力・人間性等」でつなぐ

「学びに向かう力・人間性等」	
生活科	社会科
・これまでに行ったことがある地域の場所や、関わったことがある人々に関心を持ち、もう一度行こうとする。	・身近な地域の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などに関心を持ち、意欲的に調べる。

総合的な学習 第 1 次「鷺洲のこと もっと知り隊！」
・社会科での校区探検の調査で、さらに自らの問いを持ち、意欲的に調べようとする。

表 5 総合的な学習の導入部分までの実際

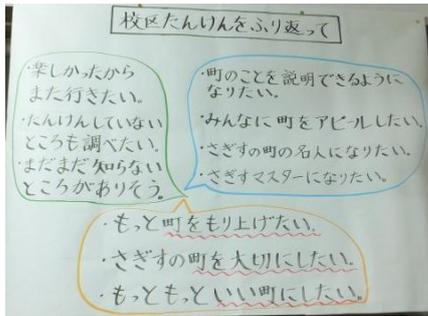
教科・単元
(○…学習活動, ●…資質・能力)
<p>生活科「もっとなかよしまちたんけん」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●身近な地域の人々やさまざまな場所について理解する。「知識・技能」</li> <li>●これまでに関わった人々の中から、会いたい人を決め、探検の計画を立てたり準備をしたりする。「思考力・判断力・表現力等」</li> <li>●これまでに行ったことがある地域の場所や、関わったことがある人々に関心を持ち、もう一度行こうとする。「学びに向かう力・人間性等」</li> </ul>

<p>社会科「わたしたちの町のようす」</p> <p>○学校の屋上から町を見る。</p>


○探検の計画を立てる。

●身近な地域について、学習問題や予想、学習計画を考え、適切に表現する。「思考力・判断力・表現力等」

○町探検をし、絵地図をつくる。

●身近な地域の様子は、場所によって違いがあることを理解する。「知識・技能」



社会科・総合的な学習「町のことを見つけよう」

○町で発見したものを「見つけたよカード」に書き、交流する。

●身近な地域の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などに関心を持ち、意欲的に調べる。「学びに向かう力・人間性等」



総合的な学習「鷺洲のこと もっと知り隊！」

○総合的な学習の1年間の計画を立てる。

●社会科での校区探検の調査で、さらに自らの問いをもち、意欲的に調べようとする。「学びに向かう力・人間性等」

### 3 研究の方法

大阪市立鷺洲小学校第3学年1組(33名)の児童を対象に、平成30年7月18日に総合的な学習に関するアンケートを実施した。質問内容は、「総合的な学習の時間って、どのような学習

だと思いましたか。」である。

収集したアンケート結果の分析から、教科と総合的な学習を資質・能力でつないだ単元計画を構想し、実践したことが、児童にどのような認識をもたらしたのか明らかにする。

### 4 結果・考察

児童のアンケートを分析した結果、3つの認識に分類することができた(表6)。

表6 総合的な学習のアンケート結果

分析観点	人数(名)
自分たちの思いを実現する場	13
探究的・協働的な学びの場	10
教科で学んだことを発揮する場	10
計	33

#### (1) 自分たちの思いを実現する場

児童は「町を笑顔にできる学習」「もっとにぎやかな町にする学習」「教科書がないから、自分が調べたい町のことを調べられる学習」などと記述していた。社会科の校区探検後の振り返り活動の中で、児童は、閉まるお店、新しく生まれるお店、昔から残り続けるお店などがあることに気付いた。第一筆者が児童の発言を総合的な学習でも重要視される「思い」に焦点があたるように整理することで、町の変化に気づかせた。それによって、児童から「新しく生まれるお店を応援して、町をもっと盛り上げたい」「昔からあるお店の人気の秘密を調べて、みんなに広めたい」という発言につながったと考えられる。また、社会科の学習で、自分たちが作成した絵地図と20年前に作成された絵地図を比較した。児童はマンションの数が増えていることに気付き、「なぜ鷺洲の町にたくさんマンションが建ち、人が増え続けているのか気になるから調べたい」とカードに書いていた。児童の思いは、総合的な学習の課題設定段階において、鷺洲の町について疑問をもって取り組むことにつ

ながっていった。社会科の学習が児童の疑問をもつきっかけとなり、その疑問を追究していく場として総合的な学習における学習活動が自分の思いを実現する場として機能したのではないかと考える。

### (2) 探究的・協働的な学びの場

児童は「自分が調べたことを、まとめて、みんなに伝える学習」「みんなで力を合わせて考える学習」などと記述していた。第一筆者は、総合的な学習の第一時間目のときに、児童に探究過程のイメージをつかませることが重要であると考えた。そこで、第2学年の生活科の町探検の記録写真や掲示物などを活用して学習活動を想起できるようにした。児童は、「まだ知りたいことがでてきたから、2年生のときに行った〇〇へもう一度インタビューに行きたい」や「同じグループの友だちと話し合ったり、力を合わせたりして色々な物を作って発表したい」などと発言した。生活科での町探検の活動を想起し、現在取り組んでいる社会科における校区探検の活動とつなげ、児童自ら、さらに深く追究したいという考えをもった。

### (3) 教科で学んだことを発揮する場

児童は「生活科と同じように、インタビューしてまとめて、みんなに伝える学習」「社会科で学習したこととつながっている学習」などと記述していた。この記述から、総合的な学習と教科学習はつながっているという認識を持っていることがわかる。また、総合的な学習の授業において、第一筆者が調べたり、まとめたりする方法について問いかけたときに、「聞きたいことを整理するときには、生活科の学習のときみたいに思考ツールを使ったらいいと思う」「この前、国語科でメモの取り方を学習したから、お店の人にインタビューするときに使ってみたい」などの発言がみられた。これらは、児童自らが教科での学習経験を総合的な学習の活動に生かそうという思いの表れである。

これは、総合的な学習を軸として、各教科を資質・能力でつないだカリキュラム・マネジメ

ントをした効果だと考える。「教科で学んだことを発揮する場」という児童の認識は、第一筆者の教科学習の指導に対する意識の変容が大きく関係していると考えられる。カリキュラム・マネジメントをすることにより、第一筆者は、普段の授業から教科間のつながりがみられる児童の意見を取り上げたり、全体の児童に対してその意見を紹介したりしやすくなった。それにより、児童自ら、教科間の学びのつながりを意識しはじめているのではないかと考える。

## 5 研究の成果と今後の課題

本研究の目的は、総合的な学習において教科と資質・能力でつないで構想した単元計画とその効果を検討することである。

その結果、教科と総合的な学習を資質・能力でつないだ単元計画を構想し、実践することで、児童は総合的な学習に対して、自分たちの思いを実現する場、探究的・協働的な学びの場、教科で学んだことを発揮する場と認識していることが明らかになった。これは、総合的な学習とは、各教科で習得した知識や技能を活用して、自らもった問いを追究して解決していく学習であるということ、児童なりに掘みつつあるのではないかと考える。今後は、国語科等との関連を意識した学習活動を実施する予定である。引き続き、児童の認識を調査し、教科と総合的な学習を資質・能力でつないだ単元計画を構想し、実践することの効果进行を明らかにしていく。

### 参考文献

- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 生活編・社会編・総合的な学習の時間編
- 田村学 (2017) カリキュラム・マネジメント入門. 東洋館出版社, 東京
- 堀公明 (2015) わたしたちの大阪 3・4年上. 日本文教出版, 大阪
- 加藤明, 濱田純, 吉田豊香 (2015) あしたへジャンプ新編新しい生活下. 東京書籍, 東京